

放射線災害医療サマーセミナー2018 活動報告

1 概要

日程 ; 2018 年 8 月 6 日 (月) ~10 日 (金)

受講者 16 名

2 長崎大学参加者

講師 : 山下俊一学長特別補佐、松田尚樹教授、タチアナ・ログビッチ助教

川内村フィールドワーク実習調整 : 林田直美

富岡町フィールドワーク実習調整 : 折田真紀子助教

連絡担当 : 林田直美

3 実施報告

2014 年より開催されている放射線災害医療サマーセミナーは、今年で 5 回目を迎えた。これまで、8 月後半に実施されていた本セミナーは、都合により、8 月前半に開催となった。今回は、全国から、看護学部学生（大学院生）、医学部生など、医療系の学生 16 名が参加した。セミナーは、過去に開催されたセミナーと同様に、前半は座学、後半はフィールド実習を中心としたスケジュールであった。

2 日目の午前中までは福島県立医科大学で講義、実習が行われた。長崎大学からは、3 名が講師を務め、実習 1 日目には松田教授が放射線の基礎についての講義と放射線測定実習を担当し、その後タチアナ・ログビッチ助教が「チェルノブイリ原発事故前後から現状まで」と題して講義を、また、2 日目の早朝には山下学長特別補佐が「未来への遺産—広島・長崎・チェルノブイリから福島復興に向けて—」と題して講義を行った。

2 日目の午後からは、フィールドでの学習が主であり、福島県伊達市で福島県立医科大学の講師より、「原発事故後の福島県内における甲状腺超音波検査について」の講義を受けた後、福島県民健康調査の一環として実際に行われている甲状腺検査を見学した。3 日目はフィールド実習として、福島第二原発を見学した。4 日目のフィールドワークでは、参加者は 3 つのグループに分かれ、さらに、各グループに過去のサマーセミナー修了生がチューターとして参加し、それぞれ川内村、富岡町、飯館村の 3 地域で実習を行った。長崎大学はこのうち川内村、富岡町のフィールドを担当し、川内村は林田が、また、富岡町は折田助教がそれぞれ調整・引率を行った。

最終日となる 5 日目は福島県立医科大学において、「災害後のコミュニケーションとは？」と題した最終講義を受けた後、ワークショップとして、フィールドで学んだことや感じたことをそれぞれのグループごとにまとめて発表し、質疑応答を行った。

今回、3 町村でのフィールド実習日には、台風の接近による悪天候のため、プログラムの変更を余儀なくされたが、無事に全行程が終了できてなによりであった。参加者からは大変有意義なセミナーであったとの声が聞かれた。本セミナーは節目の 5 回目終了し、今後の開催は未定であるが、参加者に大きな影響を与えていると感じた。

(文責 ; 林田直美)



山下先生講義



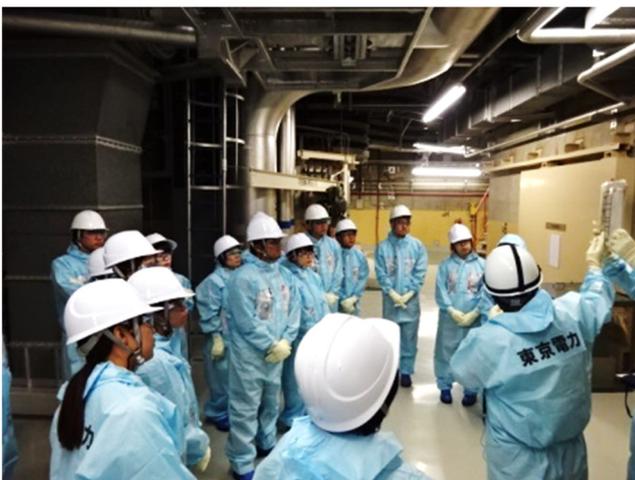
松田先生講義



実習（放射線測定）



タチバナ先生講義



見学（福島第二原発）



フィールド学習のまとめ